

—被災地の環境回復と創生に向けて—

国立環境研究所 南相馬出前講座

(独) 国立環境研究所では、震災後、放射能に汚染された環境の回復をはじめとして、福島復興・再生に向けたさまざまな調査研究を進めてきました。

このたび、これまで福島の復興・再生に向けて行ってきた災害環境研究の成果の一部をご紹介しますとともに、住民の方々との意見交換を行います。

また、「福島復興ソーラー・アグリ体験交流の会」の半谷代表から、復興を担う人材育成の具体的な取り組みについてのお話もさせていただきます。

皆様のご参加をお待ちしております。

日時：2月15日(日) 13:00-15:30

会場：道の駅南相馬

(受付開始 12:30)

福島県南相馬市原町区高見町2丁目30-1

プログラム

参加費無料。
どなたでも参加できます。
(事前の申込は不要です)

国立環境研究所ですすめる災害環境研究 13:05~13:15

大原 利真 (独立行政法人国立環境研究所 福島支部準備室 研究総括)

・国立環境研究所が行っている災害環境研究の概要について、紹介いたします。

身近な自然環境における放射性物質の動き 13:15~13:35

林 誠二 (独立行政法人国立環境研究所 環境回復研究プログラム プロジェクトリーダー)

・自然環境の放射能汚染の状況を正しく理解することは、安全で安心な生活を送るうえで、とても大切です。森から海まで河川を介した流域における放射性物質の事故後のこれまでの動きと現在の状態、そして今後の推移について、国立環境研究所が浜通り地方河川流域を対象として行っている調査結果を基に報告します。

南相馬ソーラー・アグリパークの体験学習と復興を担う人材の育成 13:35~13:55

半谷 栄寿 (一般社団法人福島復興ソーラー・アグリ体験交流の会 代表理事)

・同パークが太陽光発電の体験学習を開始して2年。市内小中学生の半数、1700名が楽しく体験しながら、「自ら考え発表し行動する力」を育てています。県内の高校生を対象として、将来の社会起業家を目指すスクールも展開しています。福島の復興を担う人材育成の実績と今後の挑戦についてお話しします。

地域の環境と調和した復興まちづくりの研究 13:55~14:15

中村 省吾 (独立行政法人国立環境研究所 環境創生プログラム 研究員)

・復旧から復興、そして環境創造へ向けて、将来のまちづくりや暮らしをどのように環境と調和させていけばよいのでしょうか。主に福島県新地町を対象とした、エネルギーやコミュニティの観点による研究事例を紹介いたします。

質疑応答・意見交換 14:30~15:25

・講演に関する質問や、普段から気になっていることなど、皆様からのご意見をお聞かせください。

◆コーディネーター：田中章広 (特定非営利活動法人 相双NPOセンター専務理事)

主催 独立行政法人国立環境研究所
問合せ先 独立行政法人国立環境研究所 福島支部準備室
TEL : 029-850-2276 <http://www.nies.go.jp/>

